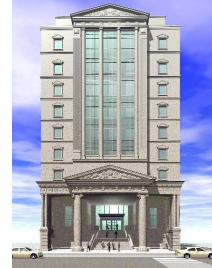


CASBEE[®] - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡別院	階数	地上10F
建設地	福岡県福岡市	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	2人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,600時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2017年5月8日
敷地面積	1,452 m ²	作成者	大屋修
建築面積	1,090 m ²	確認日	2017年6月1日
延床面積	6,424 m ²	確認者	大屋修



ださい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 寺院である本建物は、特に長寿命化が望まれる。そのことはLCCに直結するため、高耐久である材料の選定を、重点的に配慮した計画としている。また、エントランス周りはピロティ空間により開放され、公共空間との一体感があるようにしている。		その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁には補修期間の最も長い石材を採用し、最もコストと手間のかかる部分の維持管理に配慮した。内装仕上げと設備関係の更新時期を一致させるよう考え、内部の維持管理の合理性に配慮した。インテリアは寺院にふさわしい和風の雰囲気を実現している。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁には補修期間の最も長い石材を採用し、最もコストと手間のかかる部分の維持管理に配慮した。内装仕上げと設備関係の更新時期を一致させるよう考え、内部の維持管理の合理性に配慮した。インテリアは寺院にふさわしい和風の雰囲気を実現している。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外構緑化率30% 建物緑化指数2.1、5%を確保し、交差点に面するエントランス周りはピロティ状とし日陰を形成している。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 主要な窓ガラスに高遮熱断熱複層ガラスを採用。自然エネルギーの変換利用として、ソーラーパネルを設置する。換気は全熱交換機を採用し空調の外気負荷を低減させる。管理運用体制としては建築主側スタッフへ設計の環境配慮内容に説明を行う。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水・自動火災・小規模自動洗浄・扉扉設置を採用。雨水利用システム、雨水を雑用系の中水として利用(雨水利用率76%)している。軽部材の活用(軽部材・鉄・基礎・床の2階に高坪セメントを使用(上部構造は鉄骨造)。有害物質を含まない材料として、ビニル床シート・壁紙用接着剤・防水プライマーにはPFR法該当物質の含有されないものを使用。部材の再利用を促進するため、壁・天井は軽量鉄骨下地とし分別可能となっている。床はタイルカーペット・カーペット・畳・板張りなどで取替可能な材料としている。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 交差点に面するエントランス周りはピロティ状とし日陰を形成している。舗装面積率19.9%程度・屋上緑化を行う

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される